

編集部 = 竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

トピックス

9月より 部会活動再開・14期生臨時講座開始

今号は4頁

○理事会開催：8月1日（土）開催。9月からの部会再開、14期生臨時講座開始など決定。

部会活動再開；部会活動は9月より順次再開します。但し、部会毎の活動内容、諸事情が異なるため世話人始め関係者の判断で、部会ごとに開始時期の延期や活動の内容の変更など行います。

14期生臨時講座開始；14期生について9月より**月1回の臨時講座**（自由参加）開始と10月以降一部部会への体験参加を計画することとしました。14期生の皆様には追ってご案内の予定です。

*15期生については顔合わせが済んでない状況やコロナ禍の現状より、当面の活動は計画していません。

○部会、臨時講座とも、あくまでも**自由参加**です。部会世話役や講座スタッフはコロナ対策に十分留意しますが、参加される皆様には三密回避など注意事項を守り、自己責任でコロナの感染予防をお願いします。

○**ML月一回発行へ** 活動一部再開に伴い MLは9月より月一回（第2水曜日）発行の予定です。

十人十色ひろば

今回は14期生 上田さん、10期生 田畑さんです

水彩画に取り組む 14期生上田芳子さん

去年から通い始めた水彩画教室が先月から再開されたので「ヨシっ頑張ろう！」と今一番 気を入れて、取り組んでいます。

イメージ通りの形、色を表現するのがとても難しく「これからどうしたらイイ?」「こんなになってしまった」の連続で先生に助け舟を出してもらいます。

“絵を観るのが好き”でも“描くのが得意”とはなりませんね。アドバイスがなければ、全然進みません。



先生の絵を模写した冬景色です。この暑い時季に少しでも涼しくなれば。皆様 くれぐれも ご自愛ください。

弾丸ツアーを楽しむ 10期生田畑泰夫さん



由布岳登山

小生の趣味の一つは**弾丸ツアー**です。目的地は九州各地、山口県。多い時にはほぼ毎月。山、高原、渓谷歩き、ジオパークや歴史の世界遺産、温泉、観光地巡り等 訪問先はまだあります。弾丸ツアーは船旅、夕方乗船すると飲み会をはじめ時としてライブイベントや星空観察会、大浴場に個室ベットで目覚めれば目的地。一日遊んで夕方にまた帰りの船に乗ります。

お気に入りの由布岳や久住山は10回近く登りました。



高千穂峡にて

変わったところでは釜山弾丸ツアー、大阪港15時発釜山港上陸は翌日10時。滞在5時間で翌々の10時帰阪。



帰路・明石海峡大橋の朝日

さすが国際フェリー、乗客も船員さんも国際色豊かで無税のお酒とショーが楽しめるラウンジがあります。 **弾丸ツアーは楽しい!**

編集部

釜山の弾丸、船で飲んでる時間>滞在時間だったのでは?

野鳥このごろ

今回は西除川でのカイツブリの子育て。

5月から観察中の泉谷さんの報告です



5月17日最初の卵確認



6月2日 卵が3~4個に



6月14日 お母さんといっしょ

5月初旬から巣作りを始めて5月17日に卵1個確認したあと、最終的に4個?そして、6月10日に雛を確認できた。親鳥が卵を残して巣から離れる時は、パッパッと枯葉で卵を隠して出かけている。



6月15日 仮住まいの建設



6月22日 僕も乗りたい



6月29日 魚ちょうだい

大雨で元の巣が流されてしまい、雛が安心して休めることを確保するため、慌てて仮の巣を再建していた。カイツブリ独特の子育て。背中に雛を乗せ翼の間に雛が隠れる姿がとても可愛いですね。もらう餌はヤゴなどの小さいものが多かったが、6月29日になるとかなり大きな魚も食べられるように。雛もこの頃になると盛んに潜る練習をするようになっている。



6月29日 大きい魚もらった



7月16日 親がいなくてもスクスク



7月18日 ウトウト

7月10日の大雨で川をせき止めていた**ゴム製**の堰が切られ、流されて親子が離ればなれに。親鳥は元の場所に、雛たちは150m下流に。雛はそれまでは餌をもらっていたので心配していたが、自分で頑張って魚やザリガニをとっていたのでほっとした。今では成長して少し飛べるようになっている。 8/3現在親鳥は2回目の抱卵中。



里山のみかん小屋に吊るした温度計は34°Cを示しました。8月の里山には入道雲がお似合いです

里山だより 里山は夏の盛り! MAさんよりのレポート

この時期は、ミカン山も畑も草まみれ、それを刈る人は汗まみれです。草を刈る作業の頼もしい助っ人は、里山好きの友人のパワーと、草刈機(エンジン式刈払機)。春にワラビを採った畑では、小さかったワラビが腰の高さまで伸び、大きく葉を広げ、セイタカアワダチソウなど様々な草も大きく伸びています。これをバッサバッサとなぎ倒すように刈ります。汗ダクダクですが、サッパリとなった畑を見ると達成感があります。ミカン山の草刈は傾斜がきついので大変です。斜面で踏ん張り、ミカンの木を傷つけないよう刈ります。



ミカン樹に気を付けて!



草を刈ってさっぱり

くっ付き虫(ヌスビトハギ、センダングサ等)が実をつける前に、草を刈るのが目標です。

今日もまた汗をかきます。

♪♪ でんでん むしむし かたつむり おまえの あたまはどこにある ♪♪

暑さと乾燥が苦手な夜行性、だけど、雨上がりには何処に居たのかと出会うカタツムリについてのQ&A。

Q① 日本に何種類？ **Q② 殻は右巻き？** **Q③ ツノ(触角)の役割は？** **Q④ 食べ物は？** **Q⑤ 繁殖は？**



A① 陸で生活する巻貝の仲間（陸貝）で生物学的定義では「マイマイ」。その種類は約800種。行動域が狭いので地域により独自の進化するため多様な種に分かれている。**A②** クチベニマイマイなど多くの種が右巻き、ヒダリマキマイマイやキセルガイなど左巻きもある。**A③** どのツノにも触覚はあり、大触角には眼はあるが光の明暗を感じる程度、小触角には嗅覚や味覚の役割、体に聴覚器官は無い。**A④** 身近にある植物が好物。葉は勿論、芽、花びら、キノコ、コケ、藻類、枯れ木など。口の中のおろし金のような歯舌で植物を削り取って食べる。殻のカルシウムを得るためにコンクリートも削り取って食べる。糞の色は、胆汁を分泌する胆嚢がない、食べ物の色素を分解できない、血液に色素がなく透明などにより、食べたものの色が反映。ニンジンだけだと赤い糞。**A⑤** 1匹がオスであり、同時にメスでもある雌雄同体。でも、基本的に1匹だけでは子孫は残さない。繁殖相手と出会うと、向かい合って顔をなめあうようにして交尾。互いの精子を交換し合い、それぞれの体内で受精して2匹が交尾の20日後位に50個程を産卵。行動域が狭く繁殖相手に出会う機会が限られているため、特殊な生殖機能を持ったのだろう。

交尾	産卵	孵化	成長	冬眠
5月初～8月末	5月中～9月末	(産卵後20～30日)	5月後～10月末	11月～4月初

●小笠原や沖縄などの島々の開発や石灰岩地での採掘により生息地域が限定的な種の減少が進み、それに、酸性雨による土壌からのカルシウムの流出や気温上昇などの気候変動、農薬使用、都市化で自然の減少などで、カタツムリの生息地も減っているようだ。残念！！

しぜん訪ねて

今回は岩湧寺周辺の自然

TMさんのレポートです

岩湧寺は大宝年間（701年～704年）に修験道の開祖・役行者が開いたと伝わる。元々は天台宗の寺院であったが明治になって融通念仏宗に改宗、現在に至っている。多宝塔やその本尊である大日如来坐像は国の重要文化財になっている。樹齢400年を超える「岩湧寺のカヤ」（河内長野市指定天然記念物）や「岩湧寺の老杉」（大阪みどりの百選）は山伏たちの修験道場であった奥深い山寺の雰囲気演出してくれる。その岩湧寺境内一面が8月も終わりごろになると秋海棠（シュウカイドウ）の淡紅色の花でおおわれてくる。



「秋海棠」は江戸時代初めに中国からわたってきたものであるが、秋に「海棠」に似た色の花を咲かせることからその名がつけられたという。もちろん多年草の秋海棠はシュウカイドウ科（ベゴニアの仲間）であり、バラ科（リンゴの仲間）の花木である海棠とは全く別の花であることはいままでもない。



岩湧寺に隣接する岩湧の森・四季彩館を拠点にして植物、昆虫観察やバードウォッチングのほか、滑空するムササビウォッチングも楽しめる。夜の観察活動になるが、四季彩館でムササビウォッチングが企画されることがあるのでそれに参加するのも一案だ。

(TM)

←ムササビの写真は四季彩館にあるはく製です

ムササビ（四季彩館で）



ヤブカンゾウ

ノカンゾウ

忘れ草をご存知ですか、忘れるとは物忘れのことでなく、憂いを忘れるほど美しい花を咲かせるという意味。万葉集にも歌われる「忘れ草」とは、中国名「萱草(カンゾウ)」の和名で、中国の古典文学に「忘憂草」と書かれていたことから、この名がついたようです。カンゾウについては、先の本MLで渡口さんのエッセイにヤブカンゾウとノカンゾウについて書かれています。

藪萱草は中国から古い時代に日本へ渡来した史前帰化植物で、3倍体であることから種子繁殖はできませんが、今や日本全国に広がっています。一方の野萱草は日本で自生していますが、中国では自生していないので「忘れ草」とはヤブカンゾウのことと思われる。このカンゾウの仲間をワスレグサ属と言って、他にハマカンゾウ、ニッコウキスゲ、ユウスゲが日本の野生種として知られています。

ワスレグサ属は**全て一日花**で、朝開いて夕方萎みますが、ユウスゲだけは夕方開き朝萎みます。学名はヘメロカリス属、ヘメロカリスとは「1日美しい」の意味で、英語ではday lily。この仲間は交雑しやすく、日本のこれらの種がアメリカで品種改良され、園芸用の花として多くの園芸種ヘメロカリスが生まれています。これらの花は7月から9月にかけて開花しますが、ニッコウキスゲや園芸種のヘメリカリスは早ければ6月頃から咲き始めます。



ゼンテイカ (ニッコウキスゲ)



ユウスゲ

ニッコウキスゲは「日光黄菅」ですが、日本各地に群生地があり、それぞれ〇〇キスゲと呼ばれており、標準植物名としてゼンテイカ(禅庭花・語源は諸説)が採用されたようです。カンゾウとキスゲの違いは**カンゾウの花は上向きでキスゲは横向き**、花色は**カンゾウが赤みが強くキスゲは黄色が強い**ということでしょうか。

南大阪昆虫記

昆虫部会の方々が出会った昆虫たち 今回はタマムシ 泉谷さんのレポートです

7月頃になるとエノキの葉のまわりを飛びまわる**タマムシ**(正式名称ヤマトタマムシ)を観ることができます。

運が良ければ葉の上で交尾しているところが観れるかも。

飛び方が独特で、体が立った状態で立泳ぎのような体勢で飛んでいます。飛ぶスピードはあまり速くありません。

成虫は主にエノキやケヤキの葉を食べるが幼虫は桜等の枯木の材を食べて成長し、2～3年で成虫になります。



コナラの
枯木に
産卵管を差し
入れ産卵中



翅をひろげた状態

最近はやりませんが、以前輝く甲虫の美しさに魅せられて標本を作っちゃいました。タマムシとセンチコガネ・カナブン等のコガネムシの仲間です。

